

【2】東諸県郡小学校体育連盟（学校数 5校 児童数 1221名）

1 年間事業

日 程	事 業 内 容
令和6年5月16日	第1回 東諸県郡小学校体育連盟役員会 (1) 役員選出 (2) 令和5年度決算報告 (3) 令和6年度事業計画・予算案検討 (4) 令和6年度の研究計画・研究内容について (5) 令和6年度スポーツ教室について
令和6年6月11日	第2回 東諸県郡小学校体育連盟役員会 (1) スポーツ教室打ち合わせ (2) 研究内容に基づく理論研究
令和6年7月16日	第3回 東諸県郡小学校体育連盟役員会 (1) スポーツ教室打ち合わせ (2) 研究内容に基づく理論研究
令和6年11月12日	第4回 東諸県郡小学校体育連盟役員会 (1) スポーツ教室打ち合わせ (2) 研究内容に基づく実践研究 (3) スポーツ交流会参加職員への説明会【オンライン】
令和6年12月16日	第1回東諸県郡小学校体育連盟スポーツ交流会
令和7年1月中	第5回 東諸県郡小学校体育連盟役員会 (1) スポーツ教室の反省 (2) 研究内容に基づく実践研究
令和7年2月中	第6回 東諸県郡小学校体育連盟役員会 (1) 研究のまとめ (2) 次年度の計画

2 事業部のあゆみ

【第1回東諸県郡小学校体育連盟スポーツ交流会】

(1)	主 催 東諸県郡小学校体育連盟
(2)	日 時 令和6年12月16日（月）
(3)	会 場 綾てるはドーム
(4)	参加児童及び参加人数 第6学年 181名 〈役員17名〉
(5)	種 目 ○ タグラグビー ○ ボッチャ

## 1 研究主題・副題

すべての児童が運動の楽しさや喜びを味わうことのできる体育科学習の在り方  
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践を通して～

## 2 主題設定の理由

体育科学習の目標は、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ことである。そして、この目標を達成するためには、すべての児童が運動の楽しさや喜びを感じる必要があると考える。その楽しさや喜びを児童に味わわせるために、場や環境の整備、ならびに指導する教員には指導するための知識や技能等が必要となるであろう。平成29年度告示の学習指導要領では、中学年における陣取り型ボールゲーム（タグラグビー・フラッグフットボール）の指導が必須となった。東諸県郡小体連では、昨年度は「フラッグフットボール」に焦点を当てて研究を行ったので、今年度は「タグラグビー」について研究を行うこととした。

なお、東諸県郡小学校体育連盟では、今年度、新たに「東諸県郡スポーツ交流会（以下、交流会）」を企画し、12月16日に実施した。概要としては、郡内の全小学6年生が綾てるはドームに集い、タグラグビーとポッチャの実践を通して競技への関心を高めたり、郡内の6年生同士の交流を深めたりすることが目的の会である。交流会に参加した職員と児童のアンケート結果等も踏まえて考察するとともに、交流会の有用性についての調査報告も研究に含めることとした。

## 3 研究の内容

### （1）実態調査（アンケート調査）結果とその考察

- ・ 交流会に参加した教員及び児童を対象に実施したアンケート結果とその考察

### （2）交流会の報告

- ・ 交流会の具体的内容、当日の様子、アンケート結果とその考察

## 4 研究の実際

### （1）実態調査（アンケート調査）結果とその考察

	質問項目	回答結果
教 員	指導における困難な部分(指導における不安)	・安全面      ・場所の設定や教具の準備 ・児童にルールを理解させること
	(指導する立場として) 今後学んでいきたい部分	・競技のルール ・具体的かつ効果的な指導法 ・他学年との関連や系統性

この結果から、教員の立場としてもルールの理解が難しいということが分かった。教員が理解するためにも、いきなり正規のルールを児童に説明しようとするのではなく、指導要領解説にあるように、チームの人数を少なくして役割を明確にしたり触球回数を増やせるようにしたりするなど、簡易なゲーム・動きから始めていくことが効果的である。また、低学年での鬼遊びと関わりがある領域なので、そうした系統性についても多くの先生方に知ってもらう必要がある。

	質問項目	回答結果			
児 童 (6 年 生)	タグラグビーの経験の有無	ある	(100%)	ない	(0%)
	タグラグビーで「楽しい」「おもしろい」と思うこと	・人の中をきれいに抜いたとき ・作戦を考えられること			
	タグラグビーで「難しい」と思うこと	・ルールが複雑で分かりにくい ・前進できず、止まってしまう場面が多い			
	今後も体育の授業でタグラグビーをやりたいか	やりたい	どちらかといえばやりたい	どちらかといえばやりたくない	やりたくない
		59%	37%	4%	0%

児童 (六年生)	ボッチャの経験の有無	ある　（１１％）		ない　（８９％）	
	ボッチャで「楽しい」「おもしろい」と思うこと	・ジャックボールに近いショットを投げられたとき ・投げるという簡単な動きだけで点が取れたり相手の点をなくしたりできるルールがおもしろい ・怪我をしていたのでタグラグビーは参加できなかったが、ボッチャは怪我をしていても参加できた点			
	ボッチャで「難しい」と思うこと	・微妙なコントロール ・何点入ったか理解するのが難しい			
	またボッチャをやりたいか	やりたい	どちらかといえばやりたい	どちらかといえばやりたくない	やりたくない
		７８％	２２％	０％	０％

これらの結果から、両競技に関して児童は肯定的に捉えており、今後も取り組みたいという意欲を持つ児童が多いということが分かった。特にボッチャについては、初めて体験した児童が多かったが「怪我をしていても参加できた」という意見もあるように、激しい動きが制限されていたり、スポーツを苦手と感じたりしている児童でも楽しく競技に参加できたものといえる。

## (2) 交流会の報告

### ○ 交流会の具体的内容

会次第	1. 開会行事	開式の言葉、競技の説明、準備運動	
	2. 競技	・1班9～10人(計20班)に分かれて行う ・ボッチャ(10班)とタグラグビー(10班)で前後半交代 ・各班5試合ずつ両競技を実施	
	3. 閉会行事	感想(児童発表)、閉式の言葉	
参加者	<b>【児童】</b> 本庄小、森永小、木脇小、八代小、綾小の6年生(総計 約200名)	<b>【教員】</b> 小体連職員(5名)、養護教諭(1名) 左記児童の担任(計11名) 体育振興指導教員(1名)	

### ○ 当日の交流会の様子

- ・児童の競技実施については、小体連職員から説明を受け、児童同士でルールを確認したり、熱心に作戦を考えたりしている姿が見られた。なお、交流会以前に各学校で両競技に取り組んでいただったので、簡単な説明でスムーズに実施に至った。
- ・体育振興指導教員(年永健二教諭)を招聘したことで、効果的な指導法や競技中の具体的な声かけの仕方等について、指導する立場としても学ぶことができた。

交流会の様子



## ○ アンケート結果とその考察

教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静と動の競技がどちらも経験できてよかったと思う。</li> <li>・ 児童は他校の児童と交流できたことで、中学校進学への期待感が高まっていた。</li> </ul>	
児童	交流会で、他校の人と交流ができたか	はい（92％） いいえ（8％）
	具体的にどのような交流ができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会話をする程度だった。</li> <li>・ いいプレーができたときにハイタッチをした。</li> <li>・ 他校の人達と仲良くでき、友達になれた。</li> <li>・ いろんな話で盛り上がり、協力することもできた。</li> <li>・ 最後に「中学校でまた会おうね！」と言葉を交わせた。</li> </ul>

- ・ 交流会に参加した教員、児童両者から肯定的な意見が多く、競技への関心を高めたり、郡内の6年生同士の交流を深めたりするという目的は達成できたと思われる。
- ・ 児童から、交流の面に関しては「会話をする程度だった」という意見もあるので、次年度以降開催する際には開会行事でアイスブレイクを取り入れるなど、初対面でもよりコミュニケーションを取りやすいよう計画立てていく必要があると思われる。

## 5 まとめ

### ○ タグラグビーの指導・研究に関して

- ・ ルールが複雑であり、また教員自身が小中学生だったときに体験したことが少なく、馴染みの薄い競技であるが故に、指導に不安を抱えている教員が多いことが分かった。体育主任が指導経験のある教員とともに指導法や系統性について周知する機会を設けたり、（タグラグビーに限ったことではないが）指導に不安のある先生が体育主任等にいつでも尋ねることのできる環境を構築したりしておくことが大切である。
- ・ タグラグビーという競技を「楽しい」「おもしろい」と肯定的に受け止めている児童は多いが、競技の難しさやルールの複雑さから否定的に捉えている児童も一定数いることが分かった。系統性をうまく利用するためにも、低学年時から陣取りや鬼遊び等に親しませたり、タグラグビーの指導の際は簡易的なゲームから始めたりすることが重要である。また、フラッグフットボールと同様、正規のルールにこだわらず、児童と話し合いながら納得感のあるルールを作ってそれにそって授業を進めていくことも大切である。

### ○ 東諸県郡スポーツ交流会に関して

- ・ 今回、第1回目の試みとして開催したが、ある程度予定通り、そして目的に沿って実施することができ、大きな収穫を得たというのが東諸県郡小体連としての率直な感想である。次年度以降、更に実りある会にできるよう、交流会に参加した先生方や児童にアンケートを取り、反省点の改善に繋げるとともに、各校の体育主任を中心に東諸県郡の全小学校教員への周知を図っていきたい。